

第97回全国安全週間を迎えて

重篤な災害の未然防止に努めて頂きたい



名古屋北労働基準監督署長 橋本 享

の墜落、トラックの追突事故などで、5人の労働者が命を落としています。今年に入ってから、梯子や脚立からの墜落で、2人の労働者が亡くなられています。

です。

各事業場におかれましては、事業者・労働者双方が労働災害防止の基本ルールを確実に守っていただき、そして、リスクアセスメントを通じて危険源を把握し、管理していただくことで、重篤な災害の未然防止に努めて頂きますようお願い致します。

安全週間に合わせて、皆様の事業場でも、経営トップによる安全への所信表明や安全意識の高揚、安全パトロールでの職場の総点検、安全旗の掲揚や標語掲示など、安全週間にふさわしい行事の実施に積極的に取り組んでいただきますようお願い致します。また、今年もこの全国安全週間が、労働災害を1件でも減らし、労働者がより安全に働くことができる職場環境を築く、きっかけになることを切に願っております。皆様の事業場で健康で安全に働き続けられることを祈念いたしまして、令和6年度全国安全週間にあたっての言葉と致します。

今年も、6月を準備月間、7月1日から7日までを本週間として、全国安全週間が展開されます。全国安全週間は「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、昭和3年以来一度も中断することなく、毎年、全国的に続けられ、今年で97回目を迎えます。

この間、各産業に携わる方々のご努力により、職場の安全水準は着実に向上してきたものと考えられておりますが、当署管内では未だ数多くの労働災害が発生しています。昨年（令和5年）の当署管内の休業4日以上の死傷災害発生件数は1469件でした。新型コロナウイルス感染症によるものを除くと1245件であり、一昨年と比較すると6・4%の増加となっています。これは2年連続の増加であり、近年若干の増減を繰り返しながらも増加傾向が続いています。

また、業種別では、製造業、商業、運送業で全体の半数を占めております。当署では、後遺症を伴ったり、命に関わるような、重篤な労働災害の根絶に努めておりますが、昨年、当署管内では、建設重機との接触、作業中の

今年度の全国安全週間のスローガンは、「危険に気付くあなたの目、そして摘み取る危険の芽、みんなで築く職場の安全」

令和6年度 第97回 全国安全週間スローガン

危険に気付くあなたの目、そして摘み取る危険の芽、みんなで築く職場の安全